

使用教材：地図帳『標準高等地図』



「世界の人口密度」「おもな国の年齢別人口構成」の図から読み取れることを、確認しよう。

- 問1** (1) 『標準高等地図』p.141「**1** 世界の人口密度」を見て、次の各大陸で、広い範囲で人口密度が1人未満または非居住地帯となっている地域を挙げ、その理由について、気候や地形の面から考えてみよう。気候は『標準高等地図』p.119～120、地形は一般図を参考にしてみよう。

北アメリカ大陸 : 理由: 南アメリカ大陸 : 理由: アフリカ大陸 : 理由: オーストラリア大陸 : 理由: 

- (2) ユーラシア大陸の南アジアと東アジアで、人口密度が高くなっている地域（1km<sup>2</sup>あたり200人以上）を2か国挙げ、その理由について、地形や気候の面から考えてみよう。

人口密度が高くなっている地域の国:  理由: 

- (3) 『標準高等地図』p.141「**2** おもな国の年齢別人口構成」を見て、エチオピア、アメリカ合衆国、日本の人口ピラミッドは、それぞれどのような特徴があるか、答えよう。

エチオピア: アメリカ合衆国: 日本: 

地図帳の主題図と統計資料を用いて、世界の人口について確認しよう。

- 問2** (1) 『標準高等地図』p.141「**3** 人口爆発」のグラフから、1950年以降、人口が大きく増加した地域を2つ挙げよう。

人口が大きく増加した地域:  

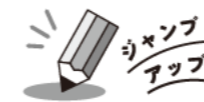
- (2) 『標準高等地図』p.147～154にある世界の各地域の国別統計資料で「人口増加率(%)」の欄を比べて、地域ごとにどのような特徴や違いがあるか、読み取れることをまとめよう。

- (3) 『標準高等地図』p.147～154にある世界の各地域の国別統計資料の「産業別人口の割合(%)」から、人口増加率の高い地域では、どの産業の割合が高い傾向にあるかを調べて、その理由を考えてみよう。

割合の高い産業:  産業理由: 

- (4) 『標準高等地図』p.35～36「アフリカ北部」のサヘルで人口が急増すると、どのような問題が起きると考えられるか。文中の語句から正しいものを選び、○を付けよう。

( サバナ ; ステップ ) 気候下において降水量の減少や気温の上昇だけでなく、急激な人口増加に伴い必要な食料を確保するために行われる ( 過放牧 ; 遊牧 ) などにより、( 砂漠 ; 液状 ) 化が進行してしまう。



地図帳の主題図から分かる、日本の人口問題の特徴をまとめよう。

- 問3** 『標準高等地図』p.142の主題図を見て、①②は  にあてはまる語句を答えよう。また、③④はあてはまる語句を選ぼう。

①「**6** 総人口の推移」を見ると、 の割合が1990年代以降、急速に増えていることが分かる。②日本の人口分布は、「**8** 日本の人口密度」と「**12** 都市圏別人口割合」から、 圏・ 圏・ 圏で人口密度や都市圏別の人口が高い割合となっており、偏りが見られる。③「**8** 日本の人口密度」・「**12** 都市圏別人口割合」が高い地域と「**11** 老年人口の割合」を合わせて見ると、老年人口の割合が( 高い ; 低い ) 地域ともおおむね一致する。このことから、日本では3つの大きな都市圏に人口が集中しているため、それ以外の地域では高齢化の度合い、進行が一層早いと考えられる。④「**10** 1人の女性が生涯に産むとされる子どもの数(日本)」では、( 東京圏 ; 名古屋圏 ; 関西圏 ) 以外の2つの都市圏の数値の低さが目立ち、3大都市圏が一律な状況というわけではない。また数値が高い地域は、( 九州地方 ; 東北地方 ; 北海道地方 ) や中国地方など、( 西高東低 ; 東高西低 ) の傾向も見られる。

# 「世界と日本の人口問題」をSDGsにつなげる ワークシートの活用について

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之

## 「人口」に関する内容をSDGsで扱う意義

SDGsに示される17の目標は、持続可能な世界を築くために「あらゆる形の、そして、あらゆる面の貧困をなくす」ことを掲げている。これを実現するためには、どの地域で、どのようなことが、どのくらいの人々に必要とされているのかを具体的に把握する必要がある。世界の人口分布を知り、理解を深めることは、SDGsを進めるうえで最も基礎にあたる事項といえる。今回のワークシートでは、「ウォーミングアップ」で現在の状況を整理し、「ステップアップ」の部分では、世界人口の推移や人口増加率を通して、時間軸や地域ごとの変化・特徴を確認する。最後の「ジャンプアップ」部分で、世界の人口の現状を知ったうえで、日本の人口問題をとらえる構成とした。

## 「世界の人口分布」から、分布の特徴(偏り)をつかむ 「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点 (ウォーミングアップ)

世界の人口分布には明瞭な偏りがある。エクメーネ（人間が居住する地域）を拡大してきた人類であるが、極地やヒマラヤなど極端に標高の高い山岳地域、砂漠はその厳しい環境のため、現在でもアネクメーネ（人間が居住しない地域）として人類が集中して居住することを拒んでいる。「ウォーミングアップ」設問（1）（2）の「世界の人口密度」の読み取りは、気候と緯度帯の関係を意識させながら、ある程度の時間を確保して取り組ませたい。ここで書き出させる作業は、地図帳で各地域を何度も見返すことが必要となるため、しっかりと向き合えていれば「主体的に学習に取り組む態度」として評価ができる。また、設問（3）の「おもな国の年齢別人口構成」では、国ごとに世代間の人口バランスが異なり、経済や社会の発展に従い、

人口ピラミッドの形態が富士山型からつば型へ推移するという視点でグラフをとらえられるようにする。

## 統計資料と関連させた、「人口爆発」と「人口増加率」の読み取り

### 「思考・判断・表現」の観点(ステップアップ)

「ステップアップ」設問（2）では、設問（1）でグラフから読み取った、アジアやアフリカ地域で人口増加が多い傾向を、地図帳巻末の統計資料を用いて、数値面でも読み取る機会を作る。『標準高等地図』p.147～154の国別統計資料にはさまざまな役に立つ情報が示されているため、このような機会に積極的に利用したい。世界全体では人口は今後も増加傾向にあるが、地域により状況が異なることを確認し、人口増加という現象を一様にとらえないよう気をつけて見ることを生徒に意識させる。設問（4）はアフリカのサヘルで生じる問題を一般図も見て考える内容となっている。地図帳のさまざまなページを見ることが習慣になれば、地理的な見方や考え方にも自然となじんでいくようになる。

## 日本の人口問題に関する主題図を読み取り、文意を判断する

### 「思考・判断・表現」の観点(ジャンプアップ)

人口に関して、日本が直面している状況（高齢化の急激な進行）は特殊で、各主題図から、都市圏とそれ以外の地域で違いがあることに気付かせる。本来の「ジャンプアップ」の趣旨からいえば、そのような現象となる要因の考察まで行うべきであるが、地域の自治体の政策等も関係するため、公民科目との科目横断的な形で課題設定を行うことが効果的と考えられる。

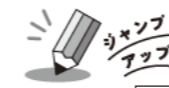
右面の解答例はコピーしてご利用ください。



- 問1 (1) 北アメリカ大陸：
- 理由：
- 南アメリカ大陸：
- 理由：
- アフリカ大陸：
- 理由：
- オーストラリア大陸：
- 理由：
- (2) 人口密度が高くなっている地域の国：
- 理由：
- (3) エチオピア：
- アメリカ合衆国：
- 日本：



- 問2 (1) 人口が大きく増加した地域：
- (2)
- (3) 割合の高い産業：  ※アフリカの人口増加率の高さやヨーロッパ等の低さに着目し、地域差があることに言及できればよい。
- 理由：
- (4) (  ;  ) 気候 (  ;  ) (  ;  ) 化



- 問3 ①  ②  圏・ 圏・ 圏
- ③ (  ;  ) 地域
- ④ (  ;  ;  ) (  ;  ;  ) (  ;  )